2016年（平成28年）
第103号
（7月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

心のこもった水子供養　～今ある命の大切さを学ぶ～

６月１２日、教会法座席に於いて水子供養式典が行われ、多くの会員さんが参拝しました。
水子供養に相応しく、法座席にはお菓子やジュース、可愛らしい飾り付けが並び、参拝した会員さんからも笑顔が溢れていました。
女子部奉献の儀に始まり、読経供養、お説法、会員代表による私の政治への取り組みの発表、古賀元教会長さんの講話、最後に佐藤教会長さんのお言葉がありました。

お説法ではある青年男性が消防官の仕事を通して、人の命と向き合うことの多さ、毎日の過酷な訓練について話しをされました。訓練中に両手指の骨折をしてしまい、それがキッカケとなって退職し事業を初める決意したことを述べられました。
私の政治への取り組みの発表では、日頃の生活が政治と密着していることや間もなく行われる参議院選挙の影響等について持論を展開され、法座席から飛び込みの質問が出るほど熱く語られました。

古賀元教会長さんは講話の中で今回のお役を通して九州の実家へ戻って幼少で亡くなったご先祖や水子の把握が出来たことを述べられました。
佐藤教会長さんは古賀元教会長さんの講話の内容に触れ、聖壇でサンゲされる行為は信仰者の姿であり、愚かさに気付いていく大切な行いであると述べるとともに、医学、化学を織り交ぜて命の尊さを教えて頂いたと発表されました。また本日の水子供養式典にふさわしく若いお役の方々が多いことにも触れ、すべてのご縁は奇跡だと教わった、毎日を大切に生きていきたいと結ばれました。

時事刻々

来年、大政奉還１５０年周年を迎えます。一月にオープニングイベントを行い、十月には幕末に京都で活躍した先人ゆかりの自治体の首長を招き、サミットが二条城の二の丸御殿の大広間で開催されます▼当時、倒幕と佐幕の国論が二分される中で、徳川幕府から新政府に政権が返還されました。暴力的な革命でなく、平和的に統一国家となってことは、日本にとって幸いでした▼もし、もっと長く対立が続いていれば、日本は列強に分割支配されていたかもしれません。その後、太平洋戦争の敗戦の時にも、戦勝国により分割されそうになったと言われています▼明治維新で皇居が東京に移り、京都は一時衰退しました。これに対して、先人は琵琶湖疏水や番組小学校を作って復興に力を尽くしました。まさに『災い転じて福となる』です▼さまざまな意見や考えがある社会で、時には対立することもあるでしょう。しかし、お互いに語り合い、理解し合い、場合によっては譲り合うことも大切です。

今月のことば　～「人を育てる」～　　青年婦人部長　杉山かおる

今月は、青年婦人部長の杉山が担当させて頂きます。宜しくお願い致します。

「人を育てる」という表題から感じたことは、むずかしいけれど大切だということです。

会長先生も、前段で、人間社会の課題の一つとして教育や人材育成のむずかしさを挙げられています。

私自身も今３歳の息子の子育ての真っ最中です。わが子が素晴らしい人間になってほしい、幸せになってほしいと願うあまり、きちんとしつけしようとしてついロうるさくなってしまい、子育ての楽しさよりマイナス面に目がいってしまい、疲れてしまうことがよくあります。

会長先生は、人を育てる立場の人は、「何のために」、そして「だれのために」人を育てるかというと、自分を磨くためのよい機会が人を育てることであり、**教育とは相手の縁にふれて自分も共に育つこと**だと教えて下さっています。そのように受けとめると、相手に対して過剰な期待をしたり、性急に成果を求めたりすることがなくなり、むしろ、うまくいかないときほど「このご縁は、私に何を教えてくれているのだろう」と自省をうながしてくれると教えて頂いています。

現在青年婦人部長というお役を頂戴しているおかげさまで、このご縁が私に何を教えて下さっているのだろうか？と意識する機会をたくさん頂いております。お役の上では、少しずつ練習させて頂けているのですが、子どもが相手だと、つい親だからという「上から目線」で考えてしまい、「共に」が抜けてしまいます。子どもが誕生してくれた時には、親にならせて頂いたことに感謝し、共に人間として成長していこうと誓ったはずなのですが。今また初心に返り、反省しながら、あせらず、ゆっくり共に学びながら成長していきたいと思います。

後段で、会長先生は、どういう人を育てることを目的とするのかといえば、**「慈悲心のある人」**一語に尽きるとおっしゃっています。

慈悲心のある人とは、**人と調和できる人、いつでも思いやりを忘れない人**です。教えるより先にまず自分を磨くことが大切であり、慈悲心のある人を育てるには「相手と縁を結ぶ自分がそのような人になる」のが一番の近道だと学び、自分を振り返ってみますと、自分の求める結果を早く出してほしいと要求し、待てていない時がよくあると気づきました。

現在、息子はイヤイヤ期の最中で、すべきことをよく理解はしていますが、分かっちゃいるけどしたくないという状態です。先に口を出してしまう私ですが、自分がお手本になるつもりで実践していれば自然と息子も見習ってしてくれるようになるのですね。

確かに、思いやりがあり、あたたかく気配りのできる人には、ついていきたい、ああなりたい、近づきたいと思います。

ほめたり、激励したりしながら、その人のもてる力が最大限に発揮されるようなご縁になることが、「人を育てる」ということだと教えて頂いております。

子どもは素直なので、ほめるととたんにうれしい顔をし、次もまた喜んで挑戦してくれます。これは大人も同じでしょう。良い言葉のシャワーをたくさん浴びせ、思いやりいっぱい持ちながら見守っていくことが、相手を伸ばすことにつながっていくと考えます。

また、人を育てる立場の人は、謙虚さが大切と戒めて下さっています。すべてを尊い出会いにして、学んで帰って来る。その繰り返しが自分を磨く習慣となり、自他の胸に慈悲の心を育むことになると教えて頂き、失敗もよいこともすべてが慈悲の種となり、私が磨かれていくのだという安心感と、向上していけるという確信を頂きましたので、常にすべてが学びだと意識しながら、努力精進させて頂きます。

合掌

青年婦人部だより　「ちょっといい話!!」　～教務部スタッフ　清水里樺さん～

開祖さま生誕 110 年の意義ある年に京都教会単独で菅沼こども村へ８月３日～5 日まで 40～120 人で行かせて頂くことになっています。事前学習会にて菅沼の飲み水は雨水などが山・地面にしみこみ１００年たってわき水となり飲めるのだと！ですので、今年の飲み水は開祖さまが１０才くらいの頃に降った雨などが１００年たって飲めるということになります。

対象者の小学３年生～６年生は開祖さまにお会いしたこともない子たちばかりですが、菅沼に行って開祖さま、会長先生の少年時代を追体験して生かされ生きる力を養い、開祖さま、会長先生とのご縁を深め、佼成少年少女のちかいを実践し、自らすすんで菩薩行ができる豆菩薩さんたちをたくさん菅沼に連れて行きたいと思っています。大自然の中、いろんな体験をさせて頂けます！ぜひともこの機会に！

「ユース２１京都理事総会」　～連合体の素晴らしさを再確認～

６月 17 日、ユース 21 京都の定例理事総会が京都 YMCA で行われ加盟団体の代表者が出席し、京都教会からも参加しました。平成 27 年度の事業、会計決算の報告、運営規定の改定、役員改正の報告、そして平成 28 年度の事業予定、予算について話し合われました。今年度より常任理事に新たなメンバーも加わりますます活気ある活動になりそうです。

総会後の懇親会でも多いに盛り上がり、交流を深めることができました。今回、永年務められた常任理事が退任するにあたり花束贈呈式が行われました。退任者からユース 21 京都に対する思いを聞き、改めてこの団体連合の人の繋がりの強さと素晴らしさを感じられました。一同はこの人と人との繋がりそして絆をこれからもメンバーみんなで大切にしていこうと決意しました。

祇園祭オリエンテーション　～1，２００余年の歴史の一員として～

６月２６日、京都市立開晴小学校・開晴中学校の六原学舎において祇園祭オリエンテーションが行われ、７月１７日の山鉾巡行ボランティアの青年部メンバーが参加しました。巡行当日は油天神山と保昌山になり、新宗連青年部を２班に分けて担当させて頂くことになりました。

オリエンテーションでは京都・祇園祭ボランティア２１会長の挨拶に始まり、公益財団法人祇園祭山鉾連合会　岸本理事長及び八坂神社　森宮司の挨拶、各山鉾町担当者の紹介、曳き手・舁き手ボランティアリーダーの紹介の後に各鉾町に分かれて当日の打ち合わせを行いました。全ての打ち合わせを終えてから八坂神社本殿においてお祓いを受け、ボランティアが本格的に始動しました。

公益財団法人祇園祭山鉾連合会
岸本理事長

八坂神社　森宮司

参加者メンバー

参議院選挙に向けて　～各支部の活動が活発に～

６月２２日に公示、７月１０日に投開票される第 24 回参議院議員通常選挙に向けて、京都教会の公認候補者への運動が活発になってきました。

各支部が中心になって事務所での応援や街宣車でのウグイス嬢のお手伝いなどを行っています。今回から選挙権が１８歳以上に引き下げられ、いかに投票に行って頂くかが課題となっています。

また私たちの政治に対する関心を今回限りにしないために、次回「青年カフェ」の開催が決定しました。

日時：８月２０日（土）１８：００～２０：００
場所：立正佼成会　京都教会　研修室
講師：調整中
対象：青年層（２０～３０歳代）を中心に３０名ほどの予定
内容：日常生活と政治のつながり
　　参議院選挙を終えてこれからの国政の行方
　　質疑応答

青年参加者と会話形式で政治に関しての理解を深めたいと考えています。

反省と祈りを込めて一票を投じよう　～参議院選挙を前にして～

■すべては自分

本会で言われることに「すべては自分」という教えがあります。これは縁起観（因縁果報）に基づくもので、考え・話し・行動したことはすべて蓄積されて（業）今の自分（因）となり、その自分にふさわしい条件（縁）にふれて結果（果報）となるので、条件も結果もそのもとになるのは自分であるということです。

つまり、自分見聞きし、ふれる出来事は、すべて自分と深いかかわりのあるもので、決して別物ではないから、縁を通して自分の身の振り方を考えていくようにします。相手や条件の責任にして、自分は何もしないというのは、この教えに反することなのです。

しかし、街なかを歩いていると、よく目にする光景があります。それは、信号を無視して横断する歩行者や自転車の多さです。「赤信号は止まれ」と幼い頃から教えられ、法律違反であることは分かっているはずなのに、どうして渡ってしまうのでしょうか？「みんながやっているから」「警察につかまらなければいい」という気持ちがあるのではないでしょうか？

戦後、私たちは何物にも束縛されない自由が貴いことだから、人は誰しも自由を享受できる権利（人権）を持っていて、憲法が基本的人権を保証しているのは周知のことです。だからといって信号を無視していいとは思えません。自由というより手前勝手、『自分さえよければ』という風潮が広がっていることに懸念を感じています。

他を受け入れず、自分の意見を押し付けようとすると、当然摩擦を生じます。さらに、度を超すと対立から争いの世界に入っていきます。これを仏教では『修羅（しゅら）界』と言っています。このような醜い世界は普通の人ならだれも好みはしません。しかし、自分中心の心が強くなれば、個々の人間関係でも、社会のグループ間でも、国と国の間でも、争いごとの絶えない世の中になってしまいます。

■共業共果（ぐうごうぐうが）

また、仏教には「共業共果」という教えがあります。世の中には、自分は何もしていないのになぜ不幸な出来事にあうのかといったことも起こります。一方で、過去の先達のおかげで、現在のような豊かな暮らしができているのも確かです。

多くの人の長年の積み重ねによって生じる諸々の問題を解決するためには、個々人の力だけでは困難です。少子高齢化社会において将来に夢の描ける国にするために、これからも平和な社会であり続けるためにといった課題は、政治に負うところは大きいでしょう。

しかし、気をつけないといけないのは、私たち自身が共業を積んでいるということです。選挙で投票するときに、自分の損得を考えるのか、人々の幸福・世界の平和を願うのか、その一人ひとりの思いが業となって、その結果にふさわしい世の中になっていくことでしょう。その意味でも、私たちの一票は重要なものだと思います。

■信仰者らしい投票を

憲法の前文に「国政は、国民の厳粛な信託によるもの」とあります。信託とは「信用して任せること」です。このたび行われる選挙では、世間の評判に惑わされることなく、この人ならと信じて託せる候補者に投票したいものです。

だから、私たち信仰者は、日頃の自分を見つめ直し、よりよき政治が行われ、平和で一人ひとりの生命を大切にする世の中になるように祈りを込もった一票にしたいと思うのです。

さらに、選挙が終わったといって、政治家任せにするのでなく、政治の動向に関心を持ち、私たちができることを考えていくことも大切です。

（編集部）

７～８月の主な教会行事

７月１日（水）	9:00～	朔日参り・布薩の日
４日（土）	9:00～	開祖さまご命日
10日（金）	9:00～	脇祖さまご命日
15日（水）	9:00～	盂蘭盆会 釈迦牟尼仏ご命日
８月１日（水）	9:00～	朔日参り・布薩の日
４日（土）	9:00～	開祖さまご命日
10日（金）	9:00～	脇祖さまご命日
15日（水）	9:00～	戦争犠牲者慰霊の日

●メッセージ

イギリスの国民投票でＥＵからの離脱の意思が示され、世界中に衝撃が走りました。残留票との差が数％という国民を二分する結果でした。テレビ解説者は国民投票の怖さを指摘されており、国民は一時の感情、マスコミ報道に流されやすいため政治家には国の方向性を示す役割があるはずと意見されていたことが印象的でした。日本でも今回の選挙から１８歳に選挙権が与えられます。各党の政策、得られる情報をもとに十分に吟味したうえで一票を投じたいと思います。今の政治は信頼できないと棄権することはなりません。